

2012年3月23～25日の宮城県における交流ワークショップ

～四日市東日本大震災支援の会 第10回派遣～

2012年3月13日

四日市東日本大震災支援の会 代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

<活動の概要>

震災から約1年がたち、仮設住宅への入居が進み、被災地での生活は少しずつ改善してきています。しかし、家族を失い、家を失い、職場を失った被災者達の気持ちは、まだまだ復興への光を見出す段階にないのが実情といえるでしょう。今、われわれにできることは、何なのでしょう。震災から時間がたち、「絆」という文字の意味を、もう一度考えることが望まれているのではないのでしょうか。

今回、四日市東日本大震災支援の会が5度にわたって延べ240名の災害ボランティアを派遣した東松島市を中心に、交流ワークショップ事業を展開することになりました。三重県の学校単位で数名のチームを編成し、それぞれが東松島市・石巻市を中心とするエリアの学校をパートナーに交流を行います。また、仮設住宅の被災者交流のためのボランティア活動も行います。

この交流ワークショップを通し、われわれができる東北支援を考え、さらには近い将来に予想されている東南海地震への備えをするきっかけになればと考えています。二度と同じことを繰り返さないよう、東日本大震災での経験を共有し、震災の教訓を後世に語り継いでいきたいと思います。

<学校間マッチングとワークショップ概要>

★高校部門（桑名北高校－石巻北高校、四郷高校－石巻西高校、暁中学高等学校(マッチング中)）

宮城県の各高校を会場に、震災を振り返り、次の1年を考えるワークショップ

★大学部門（四日市大学・四日市看護医療大学・高田短期大学・東北学院大学ほか）

全大学生が東松島市の会場に集合し、震災を振り返り、被災者支援の取り組みについて考える

<スケジュール>

3月23日（金曜）：19：00 集合、19：30 出発（四日市大学バス停）

3月24日（土曜）：宮城県東松島市野蒜地区～石巻市の激甚被災地を視察

⇒ 日和山に徒歩で上る

⇒ 高校は、パートナー学校に移動 ⇒ 交流ワークショップ（昼食）

⇒ 大学は、東松島市の関の内地区センターに移動し、交流ワークショップ

⇒ 午後は、大学・高校が集結し、矢本運動公園内東集会所で仮設住宅の皆さんと交流

⇒ 全員で夕食（ファミリーハウスみちのく） ⇒ 現地出発（車中泊）

3月25日（日曜）：朝8時に四日市大学帰着

⇒ 四日市大学で情報交換会 ⇒ 10時頃解散

★仮設住宅交流会の概要（宮城の高校生・大学生の参加を希望します）

・足浴＋血圧測定で健康チェックと交流（四日市看護医療大学が企画・運営）

・子どもと遊びを通じた交流（高田短期大学が企画・運営）

・三重のお茶とお菓子で交流（四日市大学が企画・運営）

<食事手配>

・宮城県の高校生・大学生には、24日の昼食・夕食を支給します。

・三重県の高校生・大学生には、24日の昼食・夕食、25日の朝食を支給します

2012年3月23～25日の宮城県における交流ワークショップ（高校生部門）（案）

2012年3月8日

四日市東日本大震災支援の会

代表 鬼頭 浩文

高校生部門の交流ワークショップのメインは、高校生同士の語り合い。被災地の高校生がどのような想いで生活していたのか、遠く離れた三重県の高校生はどのように被災地を支援しようとしたのか、互いに振り返りながら本音で語り合しましょう。そして、まだまだ復興までの遠い道のりに、高校生はどう関わっていくべきなのか、なにができるのか、ディスカッションをしましょう。このワークショップをきっかけに、長く交流を継続し、復興に向けた重層的なコラボレーションを期待します。なお、以下の流れを見て、自分の1年を振り返り、発言がスムーズにできるよう、準備をしてください（宿題）。二度と同じことを繰り返さないよう、震災の教訓を後世に語り継いでいきましょう。

司会進行；四日市大学の学生

- ①記念品の贈呈、先生のお礼・挨拶（10分）
- ②三重県の高校紹介（DVDなど方法を検討）と参加者の紹介（10分）
- ③宮城県の高校紹介と被災体験の報告（学校が置かれた状況など）（10分）
- ④高校生同士の本音トーク（グループに分かれて1時間）

<振り返り；時間軸それぞれで10分程度>

★被災地の高校生はどうだったか、三重県の高校生はどうだったか、それぞれ当日までに考えをまとめておき、語り合おう。

A)被災直後の3日間を振り返る

B)あなたの1ヵ月後（2011年4月11日）の生活や想いはどうでしたか？

C)半年になる夏休みから9.11まで、学校は？ 生活は？

D)1年目の2012.3.11を、あなたはどう迎えましたか？

<復興に向けての次の1年、高校生ができることは何か；フリーディスカッション20分>

★冒頭に四日市大学学生が地域パトロール（地パト）をアイデアとして提案

- ・宮城県の高校生は何ができるだろう
- ・三重県の高校生は何をすべきか
- ・連携できることを探し出そう

⑤まとめ；思いをレポートに書こう（20分）

全員で昼食会（代金はこちらが支払う）

午後は、東松島市の仮設住宅（矢本運動公園内の東集会所）での交流ボランティア（大学生と合流）
（宮城県の高校生にも可能ならば参加してもらう）

夕方から、東松島市の焼肉レストラン、「ファミリーハウスみちのく」で夕食 ⇒ 解散

2012年3月23～25日の宮城県における交流ワークショップ（大学生部門）（案）

2012年3月8日

四日市東日本大震災支援の会

代表 鬼頭 浩文

大学生の交流ワークショップでは、この1年を振り返って、どのような被災地支援活動を行ってきたのか、あるいは今後どのような活動を計画しているかプレゼンを行い、次の1年の活動のあり方についてディスカッションする。なお、現地の一般の方にも参加を呼びかけ、ディスカッションに加わってもらおう。二度と同じことを繰り返さないよう、震災の教訓を後世に語り継いでいきましょう。

★午前のワークショップ（10：00～12：00）

場所：調整中

<プレゼン>

1. 東松島市で活動する、みまもり隊の報告（東北学院大学学生）
2. 四日市東日本大震災支援の会の活動報告（四日市大学学生）
3. 四日市大学学生による地域パトロールの取り組み（四日市大学学生）
4. 初めて被災地を訪問して感じたこと（高田短期大学・四日市看護医療大学の学生）
5. 追加予定

<ディスカッションのテーマ>

1. 被災地が抱える課題のうち、大学生がかかわれるものは何か、わたしたちに出来ることは何か
2. 被災体験や被災地支援から学んだこと、成長できたこと
3. ボランティアやボラセンのあり方
4. 被災地の自治体や、日本政府の意思決定のあり方、復興に向けた政策について感じた疑問など

ワークショップ終了後、同会場で昼食会を行います（12：00～12：30）。

★午後の仮設住宅の皆さんとの交流会

場所：東松島市矢本運動公園内東集会所

- ・足浴＋血圧測定で健康チェックと交流（四日市看護医療大学学生が企画・運営）
- ・子どもと遊びを通じた交流（高田短期大学(こども学科)学生が企画・運営）
- ・三重のお茶とお菓子で交流（四日市大学学生が企画・運営）
- ・集会所周りの清掃
- ・仮設住宅を戸別訪問し、見守り and 水沢茶の配布

★夕食交流会

場所：東松島市大曲の、ファミリーハウスみちのく
焼肉・から揚げなどの食事 and 交流会